



今回は、SGH 課題研究・フィールドワーク発表会実行委員会の活動報告です。

◇ SGH 発表会実行委員会 ～ 生徒による自主活動 ～

平成29年2月21日(火)、関市文化会館で行ったSGH課題研究・フィールドワーク発表会では、1・2年生の有志がスタッフとして活動しました。2年生10名、1年生8名が実行委員会を自主的に組織し、当日の受付、司会、照明・音響係、ポスター、スライドショー・看板・パンフレットの作成等の業務を担当しました。

「自分たちの手でSGH活動を盛り上げたい」、「3年生の先輩たちのような英語の司会に挑戦してみたい」。そんな思いを抱いた生徒たちの提案が、今回の活動につながりました。

◇ 参加した生徒の感想

< 1 年生 >

■僕はこのボランティアに自分から進んで参加しました。僕はこれまで「頼まれたら責任を持ってやりきる」ことを大切に、そのとおりに動いてきました。しかしこのボランティアの中で、周りの人は自分から動いて、自分だけほとんど動いていませんでした。そのせいで、他の方に迷惑をかけてしまいました。そこで、「頼まれたら動く」ということだけではいけないということに気づきました。今後もしボランティアに参加する時には、自分でやれることを見つけて、同じミスをしないよう考えて生活していきたいです。 (新美雄介)



■私は今回の SGH 発表会で、多くのことを学びました。今回、私は裏方の仕事をしました。ステージ裏で発表者に準備をすることを促したり、講評をいただく先生たちに声をかけたりしました。表に立たなくてもこの会に貢献できたことを嬉しく思います。

私は幼い頃から裏方の仕事に憧れていました。裏方だからこそ手抜きはなし。本当に今回はそのような仕事でした。裏で働くことによって表が成立するということ、改めて感じたのです。だから、このような機会を得ることができて嬉しかったです。この会を成功させることができたのは、支えてくださった先生方、清水先輩をはじめとする先輩方が、何もわからないままボランティアになった私を導いてくださったからだと思います。

私は今回の発表会で、英語で司会をする同級生や先輩方に深い感銘を受けました。これこそが SGH なのだと、私はその学校の生徒なのだと実感することができました。また、緊急事態に陥っても慌てずに対処されていた先輩の姿に憧れを抱きました。司会だけではなく、照明、チラシ、看板、パワーポイント、受付の仕事もやはり必要なものです。先生方も私達の知らない場所で動いて下さり、有難うございました。最後になりましたが、この会に携わった皆さん、お疲れ様でした。そして、本当に有難うございました。 (中島未夢)

■私はこの SGH 課題研究・フィールドワーク発表会に、実行委員として参加しました。私の仕事は、閉会式での英語の挨拶をすることでした。関高校での一年間の SGH 活動を発表する大切

な場での仕事です。それに相応しいものにしなければならないと思い、英文を作る作業から、気を引き締めて行いました。

作業中、何度も思い出したのは、去年の夏に行われた、校内での発表会のことです。あの時、3年生の先輩方は英語での司会やプレゼンテーションを難なくこなされているように見えたが、英語という普段使いなれない言語で文章を作ることや、英語と日本語のニュアンスの違いに苦しんだりしながらのことだったのだということを、自分が同じ経験をするなかで初めて学びました。そして、「SGH 活動の意義はここにあるのではないか」と思いました。

やってみて初めて分かること、考えること。この SGH 活動の大きなテーマとなっている「グローバルイシュー」。普段あまり考えることがないこと、知る機会の少ない「グローバルイシュー」に触れることで、私たちがこれから生きていかなければならない、変えていかなければならない世界の現状について知り、考える。この経験ができるのが SGH 活動であるのだと思いました。

また、英文の添削や発音のアドバイスをしてくださった先生、一緒に練習をしてくださった先輩方の存在から、自分はずっとたくさんの人に支えられながら生きていたのだということも改めて実感しました。

そして迎えた当日。緊張しながら、舞台袖での参加となりました。一年生のプレゼンテーションに、二年生の先輩方の英語でのプレゼンテーション、そしてフィールドワークの報告。その堂々とした発表から、私たちが社会と、そして世界と繋がっていることを実感しました。そして迎えた閉会式、自分なりに満足にやりとげることができました。あのような素晴らしい会の最後を締めくくる役割を任せただけのことを嬉しく思います。

これからも SGH 活動は続いていきます。二年生ではいよいよ英語でのプレゼンテーション作りを行います。私が大事にしたいことは、自分から関心を持ち積極的に動き、実のある活動にすることです。この高校でしかできないことに全力で取り組み、楽しもうと思えます。

最後に、このような素晴らしい経験をする機会を与えてくださり、支えてくださった先生方、先輩方、ありがとうございました。そして、発表を最後まで聞いてくださった皆さん、ありがとうございました。 (市原沙也加)

< 2年生 >

■私が、SGH 発表会実行委員をやりたいと言ったのは、日常の勉強に飽き、何か他の経験をしたかったからです。関高校で学んでいると、しばしば、大学へ行くこと、すなわち受験勉強が全てと考えてしまいます。間違いではないと思いますが、それでは、大学へ行ってから続かなくなってしまうかもしれません。自分のキャリアを考える中で、英語で司会をすることや、ボランティアで進んでイベントを運営することは、将来に必ずつながります。

とはいえ、冬休みが終わり、いよいよ本格的に始めようとした時には、はっきりいって、私の SGH への熱意は冷めてしまっていました。なぜなら、大学受験を意識し始め、SGH が自分の足を引っ張ってしまっているように思ってしまったからです。

実行委員の仕事が始まると、非常に忙しく、かなり他のメンバーに頼ってしまいました。しかし、他のメンバーは、1、2 年生関係なく、本当に一生懸命動いてくれ、頼り甲斐がありました。そして、その態度は私の SGH への熱意の復活にもつながりました。SGH の発表者や実行委員のメンバーには、感謝の気持ちしかありません。そして、あのような場に立てたことを誇りに思います。

この活動は、やはり続けて行くべきだと思います。しかし、発表者の感想や意見でた課題をぜひ次に活かして欲しいです。SGH の本質はそこにあると思います。 (清水孟彦)

■私が SGH 発表会の司会を希望した理由は、昨年度の発表会で先輩方の流ちょうな英語に圧倒され、自分も全校の前で活躍したいと思ったことがきっかけでした。しかし、今年度の SGH 発表会は昨年度とは違って、文化会館という大きなステージの発表になり、新たに「SGH 実行委員会」が結成され、委員長の清水孟彦君が中心となり、司会進行だけではなく、ポスター作りや受

け付け、動画作りなど、様々な事に取り組むことが出来ました。

私は副委員長として、また演劇部員として、委員の仲間達に会館についての説明や英語の司会文とアナウンス原稿の作成、本番では袖裏で発表者の指示出しや呼びかけなど沢山の場面で働くことが出来たので本当に嬉しかったです。私たち2年生は今年度で研究は終了してしまいますが、将来大学や仕事などでも自分達が今まで行ってきた経験を発揮出来るように、これからも特に英語に力を入れて高校生活を過ごしたいと考えています。

最後に、今回の発表会が成功したのは、もちろん実行委員のみんなが努力したこともあります。やはり大勢の先生方のご協力があったからこそ成功したものだと思います。本当にありがとうございました。来年度もこのような発表会をぜひ続けて頂きたいです。 (山下夏美)

■私は、主にパンフレットを作る仕事でしたが、学んだことがたくさんありました。その中で、大切なキーワードだと感じたのは「責任」という言葉です。パンフレットは発表会の全貌を記す大切な役割を担うため、正確さが求められます。その正確な情報を集めることは、1人では出来ません。集める情報を分担し、それぞれがその情報に責任をもつことで初めて成り立ちます。しかし、今回私たちが作成したパンフレットには、その正確さが欠けていました。小さなミスでも、それに気づけば、そのもの自体の信憑性が疑われてしまいます。そして、本来、正確で当たり前であるはずのパンフレットが悪目立ちをしてしまいます。

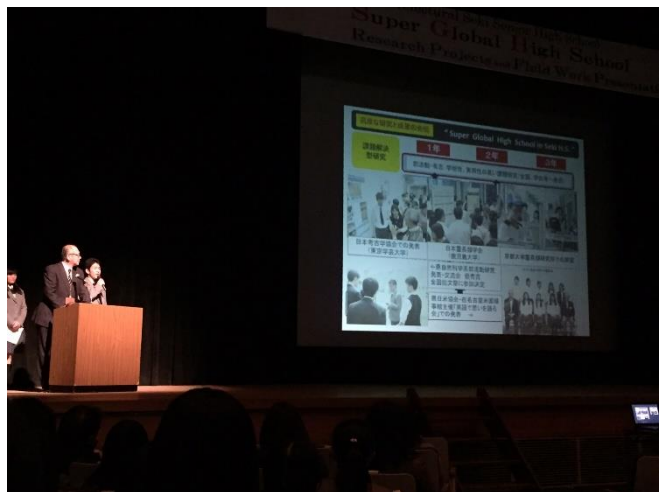
私はこれまで、パンフレットやポスター、会場の装飾などを誰が行ったのかということは、ほとんど気にしたことがありませんでした。自分が裏方になって初めて、「気にならない＝正確で完璧だったから当たり前のように思って気づかなかった」だけだということがわかりました。だから私は、目立たないことが、裏方にとっての最高の仕事の出来だと思います。そのためには、1人1人が分担された仕事に責任をもち、正確さを追求することが何よりも大切だと思います。

当たり前のことかもしれませんが、今回、このことに気づくことができたのは貴重な体験でした。ありがとうございました。 (青山実薫)

■今年のSGH発表会は昨年より思い出に残るものとなりました。限られた時間の中で実行委員一丸となって発表会を作り上げたことを誇りに思います。活動を通して自分の意見をもってアクティブに行動することの大切さを学びました。これは積極性をもちグローバルな視点で物事を考えられる大きな一歩になったと感じています。 (森美咲)

■私は凡百の高校生の一に過ぎません。一日の大半を学校で過ごし、自分の進路のために日夜教科書と向き合う。そんな画一的な学習のもと、日々を過ごしています。しかしSGH、スーパーグローバルハイスクールの取り組みは自分も含めた関高生に、グローバルで自由な学びの何たるかを知らしめてくれます。

私は今年度のSGHの取り組みに際し、クラス代表と実行委員を兼任しました。決して楽な日々ではありませんでした。学生の本分である勉強や考査は通常通りある中で、自分たちのみで研究を計画・進行し、多くの人に理解していただくまでのクオリティにもっていかねばなりません。けれども私は多忙な日々を過ごす中で、よりたくさんを知り経験しました。机にはりつき一人知識を蓄える時間も学びではありますが、「自分自身が世界について考え、課題を見つけ、その解決のために邁進する」、これもまた学びです。そ



して、「誰かとともに学び、学んだそれを誰かとともに、多数の人々に向けてアウトプットする」。ここにも学びは秘められていました。

自分達の研究の信頼度を高めるためアンケートをとったり、NPO 法人へ向かったり、多くの方に面倒をかけ、多くの方の価値観に触れました。単純に日々を消耗していれば経験しなかったであろうことを一度にたくさん経験したこと。そして数多の考えに触れ、人に触れ、わずかばかりでも社会性を蓄えられたこと。これらのことは、SGH 研究を行いクラス代表の役を務める中から学びました。また、実行委員として学んだことは、何よりも「適材適所」ということです。委員長のリダーシップと意識の高さには感服致しましたし、委員の皆さんは、例えば動画作成だとか、受付だとか、各々が各々で持っている技術や長所を活かせる場面で率先して働いていました。各人が本来持っている「できること」「やれること」を、勤労という「自由」と「義務」とに活かすことのできる、あるべき姿がそこにあったのです。このことは、今一度自身の将来の展望について深く考えるきっかけとなりました。

大学入試センター試験を受ける。国公立大学個別試験を受ける。この時、私が SGH で学んだことが果たしてどう活かされるのか、私はまだ知りません。もちろん、大学受験は人生の岐路であることはわかっています。しかし、私の人生はセンターと二次試験で終わるわけではありませんし、私の人間としての優劣はそんな紙切れ何枚かじゃ計りきれません。今、私は胸を張って言えるのです。私の高校生活は充実していると。SGH によって私の視野は広く、可能性は大きくなったのだと。 (古田翔子)

平成28年度 岐阜県立関高等学校

関高校課題研究 フィールドワーク 発表会

・平成29年 2月21日(火)
・9:00~12:40頃 関市文化会館にて

▶9:10~ 第1学年課題研究発表 日本語

全組「関の刃物を世界に売り込もう」
各クラスの代表が、日本語のプレゼンで競い合います。

▶10:30~ 第2学年課題研究発表 英語

1組「忍者について」
2組「途上国の医療・介護施設」
3組「LGBTを考える」
4組「貧困地域の食料対策」
5組「和紙・あかりアート展」
6組「点字ブロック」
7組「へき地医療」

各クラスの代表が、英語のプレゼンで競い合います。

▶11:40~ 国内外フィールドワーク発表 英語

イギリス研修・ベトナム研修・礼文島国際共同調査を、英語のプレゼンで発表します。

○参加申し込みは、関高校進路指導室までどうぞ。/担当：林 直樹
電話直通：0575-23-3919 (FAX兼)
Address : seki-shinro@gifu-net.ed.jp

ポスター製作 篠田祥 (2年)